

学生の経験を踏まえた学びを 評価するためのシステムの 運用と実際

日本福祉大学 全学教育センター
村川 弘城

経験を学びに

5.97%



発表の流れ



システムの概要



学生からの報告



4年間の学び

システムの概要

ポートフォリオと学修到達レポート

ポートフォリオ・システム

The screenshot displays the 'START' Portfolio System interface for a student named Tanaka Misako. The interface is organized into several sections:

- Profile Section (Left):** Includes a profile picture, name (田中 美香子), gender (女), birth date (1997年11月3日), student ID (14E00328), department (社会福祉学科), faculty (社会福祉学科), year (3年生), status (在学), and advisor (高橋 信也).
- Goals & Evaluation (Top Left):**
 - 目標設定・振り返りについて:** A text box explaining the goal setting and reflection process, mentioning a 4-month cycle and self-evaluation.
 - 評価の詳細:** A link to '評価の詳細.pdf'.
 - 4年次:** A dropdown menu for the current year.
 - 目標設定:** A section for setting goals.
- Acquired Credits & GPA Details (Top Middle):**
 - 既修単位数:** 130 credits.
 - 卒業・進級判定(見込):** 卒業可 (Graduation possible).
 - 取得単位数(科目区分):** A table showing credits by subject category.

科目区分	1年次	2年次	3年次	4年次
総合基礎科目	1	5	9	13
専門科目	2	6	10	14
- Subject-wise Learning Achievement Status (Top Right):**
 - 4年次:**

履修年度	科目名	成績	単位
2017	地域保健学	B	2
2017	経済学	K	0
 - 3年次:**

履修年度	科目名	成績	単位
2016	行政法	K	0
2016	労働法	D	0
 - 2年次:** (Table partially visible)
- Acquired Credits & GPA Details (Bottom Middle):**
 - 1年次:**
 - 対人基礎力: 2
 - 対自己基礎力: 4
 - 対課題基礎力: 2
 - 情報収集力: 4
 - 課題分析力: (partially visible)

入学から卒業までのPDCA

卒業時

4年次

Plan

Do

Check

Action

3年次

Plan

Do

Check

Action

2年次

Plan

Do

Check

Action

入学時

1年次

Plan

Do

Check

Action

建学の精神

建学の精神

中部社会事業短期大学は、その根本精神として、高く清き宗教的信念に根をおろした教養が積まれる場所でありたいと願うのであります。

社会事業の経営について深い問題を研究すべきはもちろんでありますが、社会事業の専門的知識人を作ることよりも、永遠向上の世界観と、大慈大愛に生きる人生観を把握した健全な人格を育て、広い世界的視野をもちつつ、社会事業を通じて、わが人類のために自己を捧げることが惜しまぬ志の人を、現実の社会に送り出したいのであります。

今や新しい日本は、新しい文化的基盤を要求しております。それは、真・善・美・聖の精神文化、特に従来不振の状態にある聖一即ち信仰を他にして、奈辺にも見出し難いのであります。

この悩める時代の苦難に身をもって当たり、大慈悲心・大友愛心を身に負うて、社会の革新と進歩のために挺身する志の人を、この大学を中心として輩出させたいのであります。それは単なる学究ではなく、また、自己保身榮達のみになんたる気風ではなく、人類愛の精神に燃えて立ち上がる学風が、本大学に満ち溢れたいものであります。

執尊のお言葉

我が如く等しくして

異なること無からしめんと欲す

この一偈を、精神的根源としたのであります。

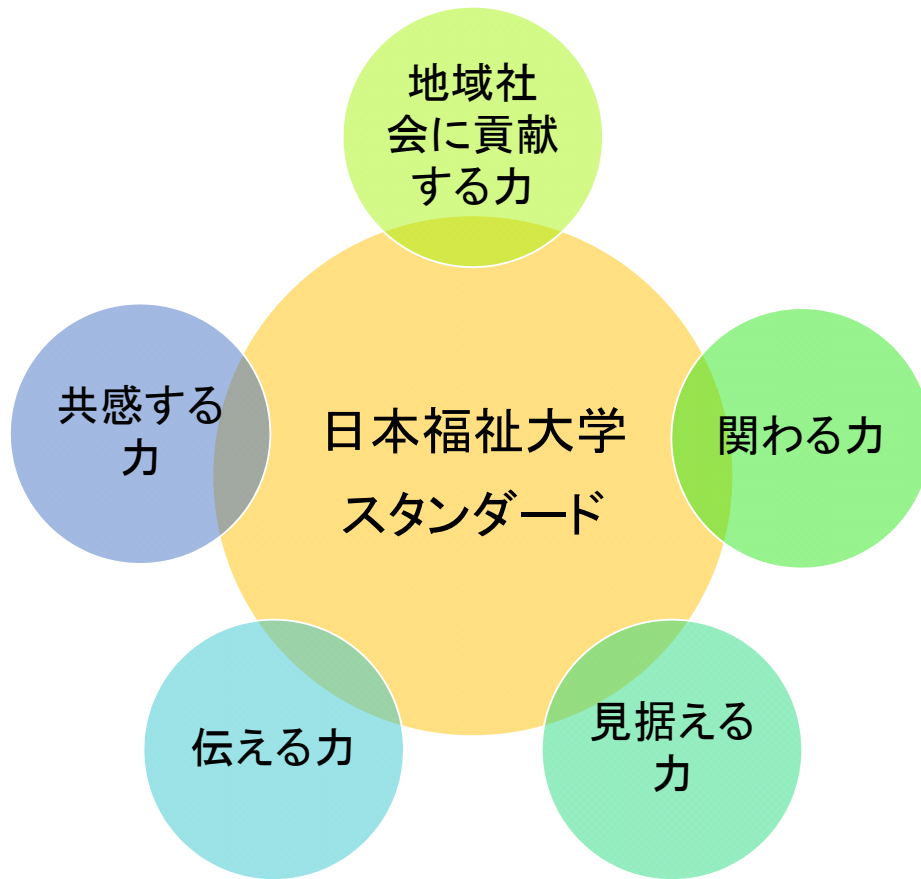
これぞ本大学学徒等の、魂の奥底に鳴り響かすべき、真理追求の基調でなければならぬのであります。

昭和二十八年四月一日

鈴木修学

学園長 鈴木正修謹書

日本福祉大学スタンダード



入学時：アドミッション・ポリシー

伝える力

- 自己の考えを効果的に伝えようとし、互いに理解しあえるようなコミュニケーションを進める意思を持っている人。

見据える力

- 幅ひろい視野で学ぶ意思を持ち、現在の「ふくし」の基本的事項を理解している人（多領域・多職種の参画など）。

関わる力

- 地域の現場で実践的に学ぶことに意欲を持つとともに、自己の将来について考える意思をもった人。

共感する力

- 他者の立場や意見を尊重する姿勢をもった人。

地域社会に貢献する力

- 地域に参画・貢献しようとする意志をもった人。

卒業時ディプロマ・ポリシー

伝える力

- 相互理解のためのコミュニケーションができる。
- 自己の考えを効果的に伝達できる。

見据える力

- 幅広い視野で学ぶことができる。
- 「ふくし」の考え方を理解し活用することができる。

関わる力

- 地域の現場で能動的に思考・行動することができる。
- 大学の学びを自身のキャリア構築と結び付けて考えることができる。

共感する力

- 他者を共感的に理解しようとすることができる。
- 他者と自身の幸福をともに追求しようとすることができる。

地域社会に 貢献する力

- 自分の住む地域で市民としての自覚をもち、何らかの形で地域に参画・貢献できる。

入学から卒業までのPDCA

4年次



卒業時

3年次



2年次



1年次



入学時

年度はじめ

- 目標設定: 5つの力から最大3個選択
- 入力の内容
 - ① 目標: ルーブリックから選択
 - ② 実践の場: 選択形式
 - ③ 方法: 記述方式
- 教員の補助: 目標と方法にズレがないかを確認し、指導

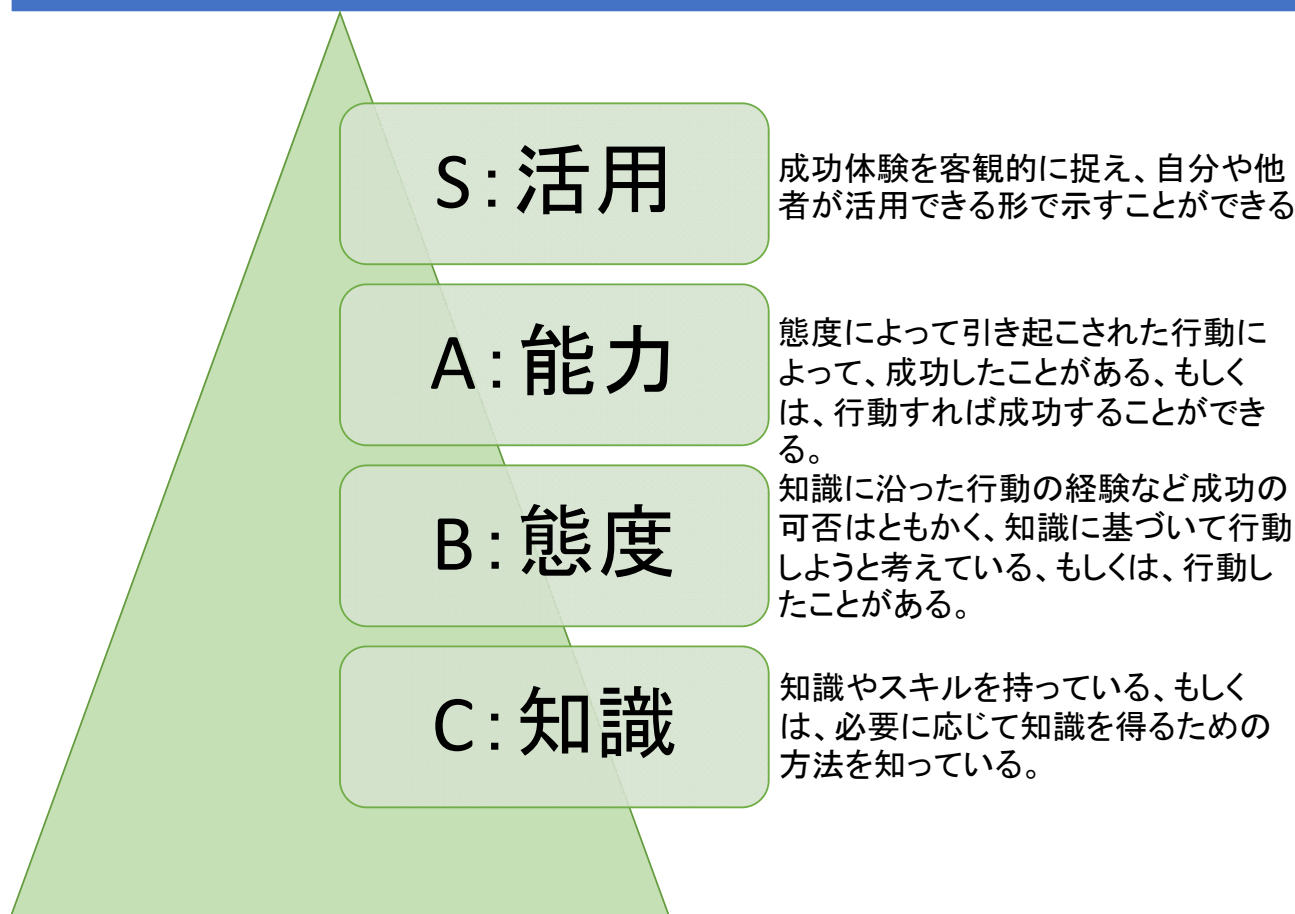
5つの力

全学 DP 評価ルーブリック

項目	元の情報	評価	S (共有)	A (能力)	B (態度)	C (知識)
伝える力	1. 相互理解のためのコミュニケーションができる。 2. 自分の考えを効果的に伝達できる。	指標	様々な情報の伝達方法を効果的に利用でき、上手く伝えられた経験をもとに他者に伝えることができる。	様々な情報の伝達方法に関する知識を持ち、それを効果的に利用して上手く伝えることができる。	様々な情報の伝達方法に関する知識を持ち、それを利用しようとしている。	様々な情報の伝達方法に関する知識を持っている。
		例示	たとえば、「A (能力)」での経験を客観的にとらえ、情報伝達の各方法のメリットデメリットについて後輩に教えることができた。	たとえば、ボランティア先で採ったアンケートを、適切なグラフを利用した PPT にまとめ、iPad で表示しながら相手にわかりやすく説明できた。	たとえば、日本語がわからない人が駅で困っている時に、身振り手振りや、絵、翻訳機など色々利用し、説明しようとしてみた。	たとえば、情報機器は苦手だが、統計知識は持っており、グラフを手で書いてわかりやすく示す方法を知っている。
見据える力	1. 幅広い視野で学ぶことができる。 2. 「ふくし」の考え方を理解し活用することができる。	指標	知識を生活や社会などと関連付けた経験をもとに、その重要性や必要性、その方法に関することを他者に伝えることができる。	知識を生活や社会などと関連付けることの重要性や必要性、その方法に関する知識を持ち、関連付けることができる。	知識を生活や社会などと関連付けることの重要性や必要性、その方法に関する知識を持ち、関連付けようとしている。	知識を生活や社会などと関連付けることの重要性や必要性、その方法に関する知識を持っている。
		例示	たとえば、「A (能力)」での経験を客観的にとらえ、どうすれば知識を他の領域に関連付けられるのかを友達に伝えることができた。	たとえば、高齢者向けのサロンでボランティアを行った際に、教育心理学で学んだ知識を生かすことができた。	たとえば、防災・減災の方法を学び、社会福祉士となってからどう生かそうかを想定している。	たとえば、文章の書き方を学んだ時に、どうすればそれを実生活で利用できるようになるかを知っている。
関わる力	1. 地域の現場で能動的に思考・行動することができる。 2. 大学の学びを自身のキャリア構築と結び付けて考えることができる。	指標	大学内外を含むあらゆる活動を、自らを高めるための場として捉えてきた経験をもとに、その方法を他者に伝えることができる。	大学内外を含むあらゆる活動を、自らを高めるための場と捉える方法に関する知識を持っており、捉えることができる。	大学内外を含むあらゆる活動を、自らを高めるための場と捉える方法に関する知識を持っており、捉えようとしている。	大学内外を含むあらゆる活動を、自らを高めるための場と捉える方法に関する知識を持っている。
		例示	たとえば、「A (能力)」での経験を客観的にとらえ、どうすれば効果的にインターンでの学びを高めることができるのかをレポートにまとめた。	たとえば、PDCA サイクルを意識しながらインターンシップを行うことで、自らの具体的な成長を実感することができた。	たとえば、ボランティアに出向いたときに、宿題として出されなくても、振り返りを行うことで生かそうとしている。	たとえば、座学の講義、アルバイトや部活、ボランティアなどでどう取り組めば自らの力になるのか知っている。
共感する力	1. 他者を共感的に理解しようとすることができる。 2. 他者と自身の幸福をもとに追求しようとするすることができる。	指標	立場や価値観の違いを越えて共感的に理解し、その理解を他者に伝えることができる。	立場や価値観の違いを越えて共感的に理解することができる。	立場や価値観の違いを越えて共感的に理解しようとする。	立場や価値観の違いを共感的に理解する方法を知っている。
		例示	たとえば、「A (能力)」を経験することによって得た理解をもとに、電車内モデルのポスターを作成して駅に貼ってもらった。	たとえば、足が不自由な人の大変さを想像することができ、その人が困っているときには、適切な援助行動をすることができる。	たとえば、ベビーカーに乗っている乳幼児が感じるだろう振動を、普段から意識して想像しながら道を歩いている。	たとえば、電車に乗っているとき、妊娠している人、車いすに乗っている人、それぞれのつらさを感じ取る方法を知っている。
地域社会に貢献する力	・自分の住む地域で市民としての自覚をもち、何らかの形で地域に参画・貢献できる。	指標	地域に対する関心と理解、市民としての自覚を自らの経験を踏まえて相手に伝えることができる。	地域に対する関心と理解、市民としての自覚をもち、地域に参画・貢献することができる。	市民としての自覚をもち、必要に応じて地域に参画・貢献しようとする。	地域に対する参画・貢献の必要性・重要性を知っている。
		例示	たとえば、「A (能力)」を経験することによって得た理解をもとに、地域の子ども達にごみ分別の大切さを知ってもらった催し物を開催した。	たとえば、自分が住む地域にごみ分別の問題があったため、何故その原因になっているのかを調査した。	たとえば、市民交流セミナーのお誘いのチラシが入っていたため、協力しようと思い、参加した。	たとえば、なぜ地域に貢献する必要があるのか知っている。

全学共有ディプロマ・ポリシーと対応

SABCのイメージ



入力の内容

第1目標

目標1(社)	
実践の場1	
方法1	
評価1	
根拠1・後	
今後1・後	

第2目標

目標2(社)	
実践の場2	
方法2	
評価2	

入学から卒業までのPDCA

卒業時

4年次



3年次



2年次



入学時

1年次



年度おわり

• 自己評価

- ③ 評価：SABCから選択
- ④ 根拠：記述形式
- ⑤ 今後：記述形式

- 教員の補助：評価と根拠にズレがないかを確認し、指導

入力の内容

講評

講評・後

教員コメント・後(任意)

講評・総評について

講評

- 入力者:ゼミ担当教員
- 判断の基準
 - ゼミでの状況
 - 自己評価の内容

総評

- 入力者:4年時のゼミ担当教員
- 判断の基準
 - ゼミでの状況
 - 自己評価の内容
 - 各学年の講評

ディプロマサプリメント:学修到達レポート



日本福祉大学 学修到達レポート

1. 基本情報

学修番号 14CU9999 学部 子ども発達学部
 入学年度 2014年 学科 子ども発達学科 保育専修

2. 正課活動の成果

取得単位数 13S 単位 GPA 2.89
 卒業論文テーマ 日本における同一労働同一賃金のあり方と実現に向けた考察
 取得(現込)資格 社会福祉士主任任用資格, 特別支援学校教諭

科目名	個人	学科平均
(全体)	2.89	2.59
総合基礎科目群	2.91	2.32
専門科目群	2.72	2.49
地域志向科目群	3.12	2.51

ディプロマ・ポリシー (DP) ごとのGPA	個人	学科平均
子進DP①	3.29	2.53
子進DP②	3.00	2.71
子進DP③	3.14	2.63
子進DP④	2.80	2.16
子進DP⑤	3.05	2.37
子進DP⑥	2.05	2.51
子進DP⑦	0.00	2.46
子進DP⑧	2.78	2.46
子進DP⑨	3.04	2.48

子ども発達学部 子ども発達学科 保育専修 のディプロマ・ポリシー
子進DP①: 子どもについての関心 子どもの発達と生活を現実の社会との関係で多面的にとらえようとしている
子進DP②: 保育・教育に関する知識・理解・技能 乳幼児から青年期にかけての子どもの発達にかかわる知識を身につけている
子進DP③: 保育・教育に関する知識・理解・技能 保育・教育の理念と制度にかかわる知識を身につけている
子進DP④: 保育・教育に関する知識・理解・技能 保育・教育の内容と方法にかかわる知識と技能を身につけている
子進DP⑤: 保育・教育に関する知識・理解・技能 子どもの発達に影響を与える要素や地域の課題を、福祉的視点からとらえることができる
子進DP⑥: 保育・教育に関する知識・理解・技能 保育者・教育者としての幅広い役割を身につけている
子進DP⑦: 思考・判断 保育・教育の目標・内容・方法に関する理論を、実際の保育・教育実践と結びつけてとらえることができる
子進DP⑧: 保育・教育に関する実践的指導力 保育と教育にかかわる諸問題を、実際の保育・教育のなかで解決できる
子進DP⑨: 保育者・教育者としての倫理 保育者・教育者としての正しい倫理観、使命感をもっている

3. 正課外活動の成果

所属サークル 明
 ボランティア 青森県東方沖地震
 特記事項 NHK学生ロボコン

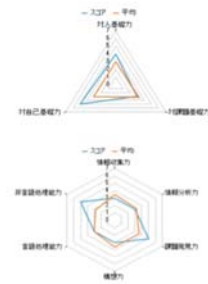
4. ジェネリックスキル・語学力等

コンピテンシー	分類名	スコア	平均
リテラシー	対人基礎力	4	2.9
	対自己基礎力	5	3.0
	対課題基礎力	4	3.7

リテラシー	分類名	スコア	平均
リテラシー	情報収集力	5	4.0
	情報分析力	4	3.8
	課題発見力	4	4.0
	構想力	5	4.2
	言語処理能力	4	4.4
	非言語処理能力	5	3.6

語学力 英語能力	検定	スコア
実用英語技能検定	TOEIC	3級
TOEFL iBT		577点
	TOEFL iBT	77点

その他	検定	スコア
ドイツ語検定試験		B1
中国語検定試験		3級
ロシア語能力検定試験		4級



5. 総評

入学当初から積極的に正課内活動、正課外活動に取り組む姿勢が感じられ、それが結果となっていると思います。ゼミではクラスに対して非常に難しい課題を課しましたが、クラスのリーダーとして課題を一つずつ、確実にクリアしていく様子は特筆に値し、今後社会に出た際に大きな強みになるはずです。

ゼミ科目修得状況 今

発行日 2018年3月16日
 学長 児玉 善郎



学生からの報告

学生からの報告

4年次

Plan

Do

Check

Action

3年次

Plan

Do

Check

Action

2年次

Plan

Do

Check

Action

1年次

Plan

Do

Check

Action

発表者の1年次

4年次

Plan

Do

Check

Action

3年次

Plan

Do

Check

Action

2年次

Plan

Do

Check

Action

1年次

Plan

Do

Check

Action

毎週成長を記録

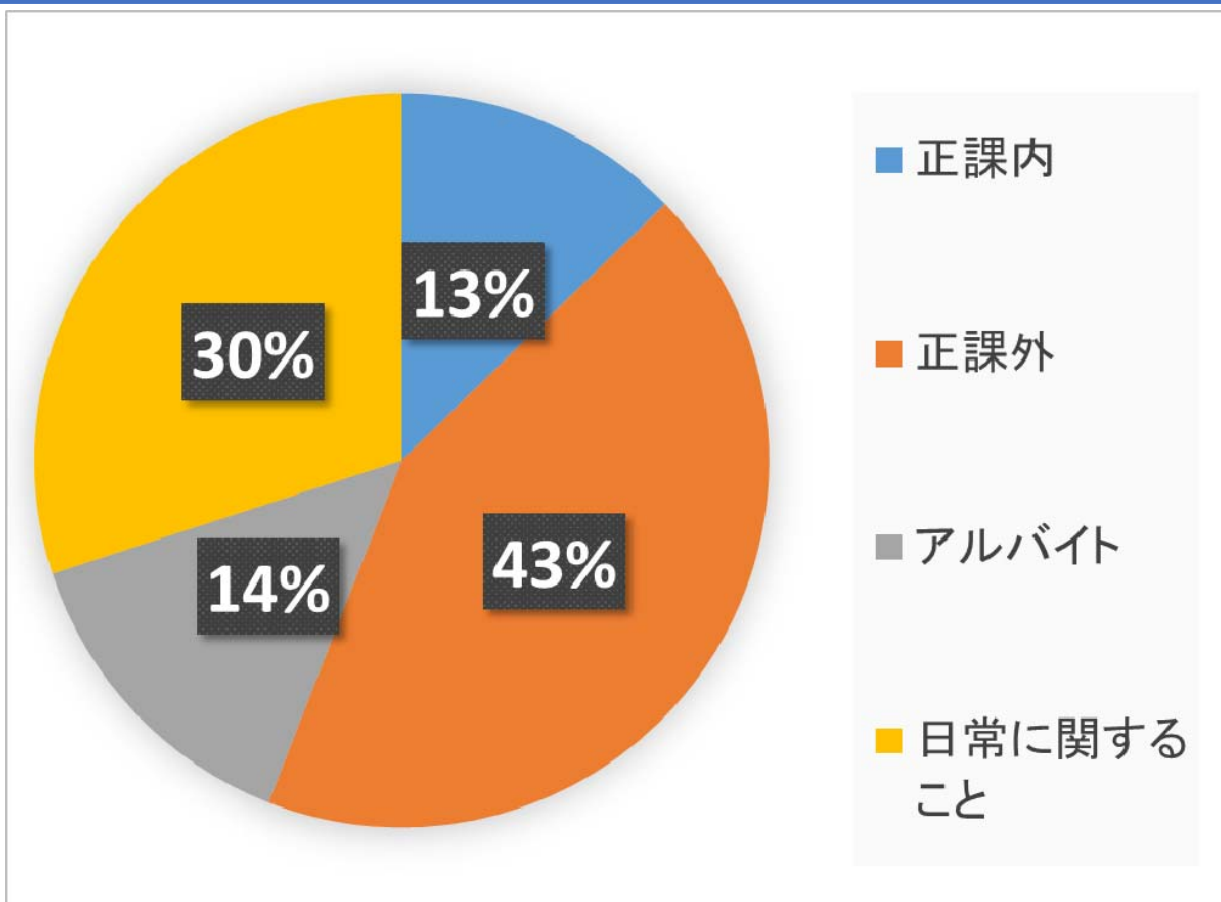
年	月	日 ()	名前
活動タイトル			
活動内容			
攻略法			

年	月	日 ()	名前
活動タイトル			
活動内容			
攻略法			

振り返り

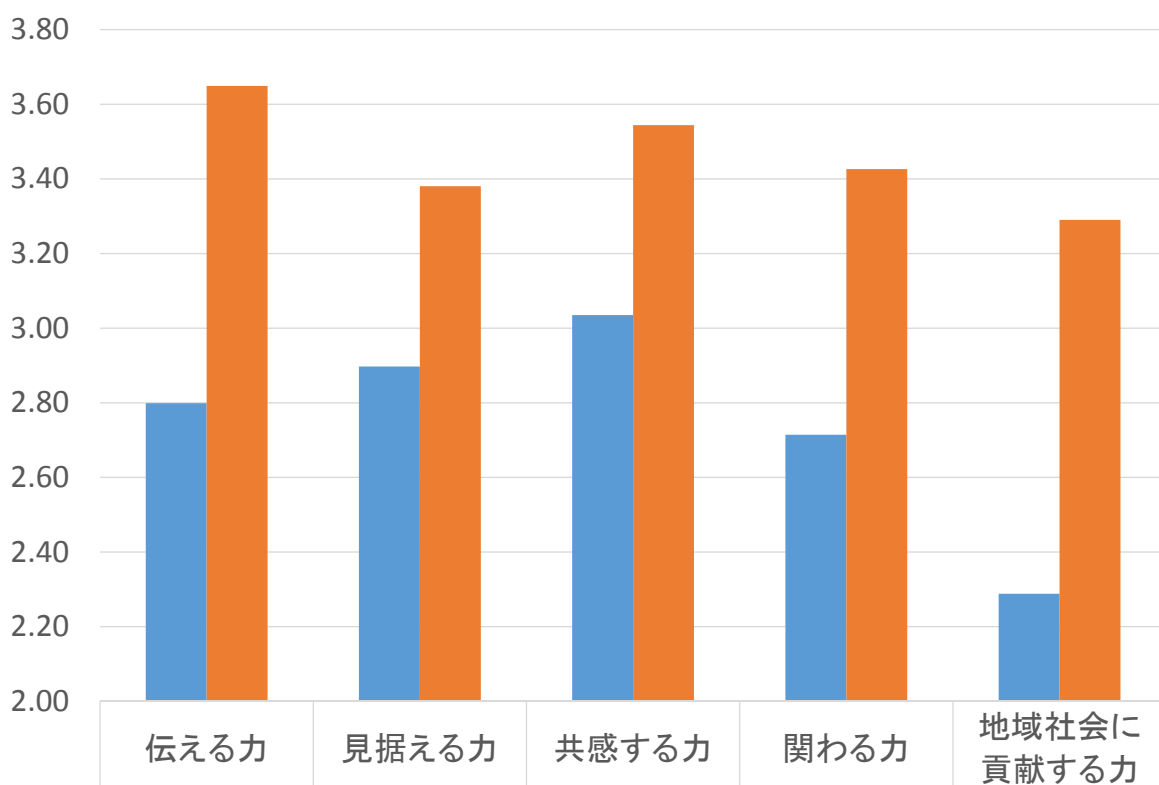
S	A	B
自己評価	自己評価に対する説	

自分が成長したと感じた場面



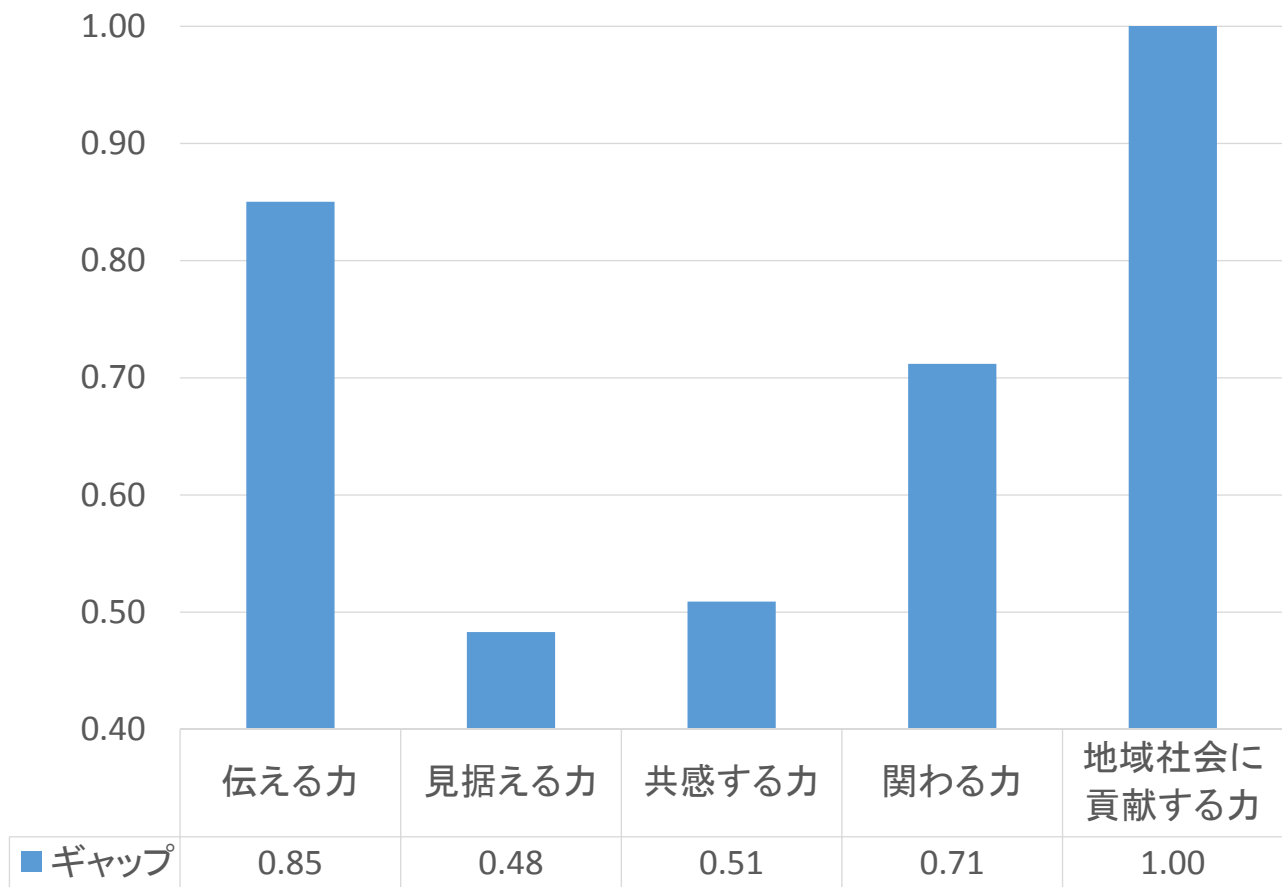
4年間の学び

卒業時における「力」の獲得と必要性



卒業時獲得	2.80	2.90	3.04	2.71	2.29
卒業時必要	3.65	3.38	3.54	3.43	3.29

卒業時における「力」の獲得と必要性のギャップ





居場所づくりから見える 地域課題

日本福祉大学 地域課題解決サークルCYCLE

加藤達洋 佐藤真衣 加藤茜

目次～PDCAサイクル～

➤ Plan

1年次の活動から組織化へ

➤ Do

地域住民を巻き込んだ居場所づくりを目的とした学習支援の実施
～PDCAサイクル・ポートフォリオを活用した紹介～

➤ Check

CYCLEとしての目標にどうつながるのか

➤ Act

今後のCYCLE

Plan

1年次の研究活動から

若者と高齢者の地域交流の差

- 高齢者の孤立化は若者の地域離れによるものではないか
- **地域と関わる『きっかけ』づくり**が大切



**美浜町河和地区に所在する築50年の空き家を
活用した居場所づくり**

Plan

組織化～地域課題解決サークルCYCLE～

世代間を越えたつながりづくりを目的とした日本福祉大学の公認サークルです。

Community (地域)
Youth(若者)
Connect(つながり)
Long life(長生き)
Elderly(高齢者)



Do

CYCLEの活動

- バザー & 内ラリー会
- みんなで食べよう会
- サロン活動
- 学習支援
- 他団体の活動参加



Do-Plan

学習支援：Plan



夏休みの居場所に関する
ニーズの気づき

若者への活動の周知

地域住民による
学習支援に関するニーズの指摘

「地域住民を巻き込んだ居場所づくり」
を目的とした学習支援の実施

Do-Plan

学習支援：Plan

他団体からの学び

NPO法人アスクネット 学習支援ステップ

学習支援には勉強だけではなく、居場所を求めて来る子も多い

大学の講義の学び

児童家庭福祉論

子どもの権利条約一般原則 子どもの最善の利益



子どもの居場所づくりを目的としたプログラムの必要性

Do-Plan

学習支援：Plan

〈実施内容〉

期間：夏休みのうち4日間

(2019年8月19日、20日、22日、23日)

午前：学習支援

午後：居場所レクリエーション

⇒①ゲーム②福祉教室~手話~④風鈴づくり⑤五平餅づくり

4日間の参加者：7人（美浜町に住む小中学生）



AP事業の活用

ポートフォリオ

〔加藤達洋の場合〕

目標	地域社会に貢献する力
実践の場	サークル
方法	地域の人たちとのつながりづくり活動により、サークルとしての基盤ができてきたので、今年には地域に貢献できるような様々な企画の実施を行っていきたいと思う。具体的には、月に2回のサロン活動の実施、地域交流等を目指したイベント活動などを考えている。また、地域で活動されている他団体への参加も積極的に行い、貢献する力を身につけていきたい。

AP事業の活用

ポートフォリオ

〔佐藤真衣の場合〕

目標	地域社会に貢献する力
実践の場	サークル
方法	モノづくりなどのイベントを定期的に企画し開催することで、地域住民同士が年代問わず自然に交流できるような環境を提供したい。地域の方との関わりを通して、地域が抱えている課題やニーズ把握に努め、我々学生に出来ることや求められていることについて考える。

AP事業の活用

ポートフォリオ

〔加藤茜の場合〕

目標	地域社会に貢献する力
実践の場	サークル
方法	地域に関わるサークル活動に積極的に参加することで、地域住民の方と多くの交流機会を設ける。また、活動の中で地域住民の方と関わることを通して地域で何が求められているのか考え、私たちの活動の充実を図るとともに少しでも地域に影響を与えられるような活動を行えるよう努力する。

学習支援：Do

学習支援

〇時まで集中してやろう

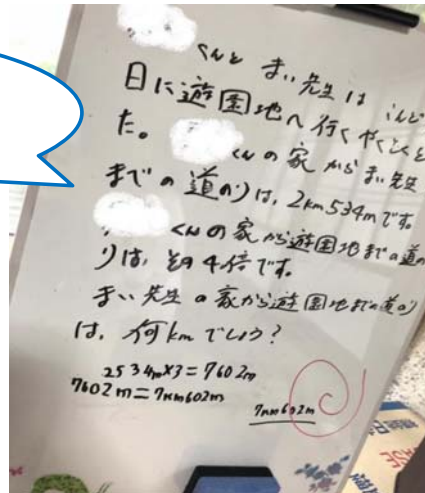


Do-Do

学習支援 : Do

学習支援

苦手箇所に基づいた
問題の作成



Do-Do

学習支援 : Do

風鈴作り



学習支援：Check

学習支援

- 参加者である子どもからの満足度はとても高かった。
- 自分たち学生も、子どもたちと一緒に交流を楽しむ事が出来た。
- 事前の情報収集、及び情報伝達が不足していた。
- 子どもの意志を尊重するあまり、学習よりも遊びを重視してしまった。
- 集中力が続かない子どもだったのだが、その子に合わせたサポートは出来ていなかった。

学習支援：Check

風鈴づくり

- こちらも参加者である子どもからの満足度はとても高く、自分たち学生も子どもたちと一緒に交流を楽しむ事が出来た。
- 集中力が続かない子どもだったのだが、その子に合わせたサポートが出来ていなかった。



Do-Check

学習支援：Check

保護者（お母さん）からのお話

Aくん（小学3年生）



集団での
関わりが苦手



Do-Check

学習支援：Check

保護者（お母さん）からのお話



学生が**1対1**で
関わる

- 本人作成の都道府県クイズ
- UNO



Do-Check

学習支援：Check

保護者（お母さん）からのお話



他の世代との関わりに
楽しみを感じてくれた

Do-Check

AP事業の活用

ポートフォリオ

〔加藤達洋の場合〕

評価	A
根拠	目標としていたサロン活動やイベント活動の実践、他団体の活動に参加することができた。実践から、理論上のニーズに対する参加者数の違いや地域団体による活動の周知の難しさなど、 地域の課題を実感することができた 。また、活動全体を通して、企画の立案や限られた資金での運営、他団体との連携など 計画性が求められること、地域の反応や変化を知り、次に求められるニーズを考える力など、先を見据えた行動の重要性を学ぶことができた 。
今後	活動の実践ができた一方で、活動での学びや気づきを 地域に発信することはできていない 。今後は、1年間で得た学びを整理し、 実践に留まらず、発信すること目的に、地域貢献する力を強化していきたい 。

AP事業の活用

ポートフォリオ

〔佐藤真衣の場合〕

評価	A
根拠	地域の方々からの意見を取り入れたうえで、開催するイベントや活動の運営について考えることが出来たから。
今後	イベント開催などのアクションは起こしたが、活動に参加していただいた地域住民の数は想定していたよりも少なかった。ただ、人数を重視するのではなく、「望んで参加してくださる地域の方のニーズに応えたい」という質を重視する考え方に変化した。今後は、居場所や人との繋がりを求めている人に支援が届くように、活動の周知に努めたい。

AP事業の活用

ポートフォリオ

〔加藤茜の場合〕

評価	A
根拠	サークル活動に積極的に参加することができた。また、サークル活動に参加したことで多くの地域住民の方と交流する機会にもなり、有意義な時間を過ごすことができた。自らの参加意欲も高まり、多くの人と関わることが自分にとってプラスになっていると実感できた。また、地域で何が求められているのか地域に関わる人から話を聞いたことでニーズを知ることができた。そのニーズを元に企画を考えていくことができた。
今後	地域の方と交流することのメリットを実感できたため、自分の興味を持った地域活動やセミナーなどがあれば積極的に参加し、さらに多くの人と交流する機会を作っていきたい。 ニーズに関してもさらに多くのニーズを把握していくことで、地域に貢献できることがあれば主体的に動いていけるような行動力を身につけ、より良い活動へとつなげていきたい。

学習支援：Act

- 利益を求めない学生主体（運営）の学習支援の重要性
- 様々な思いを汲み取り行う、子どもに合った支援方法が必要
- ➡ワークシートや学習スケジュールなどを準備（見える化）が必要
- 学生だけではなく、他の世代も参加しやすい活動へ
- ➡他の世代も参加しやすい企画への**ネーミングの変更**が必要

Check

CYCLEとしての目標にどうつながるのか

居場所づくりによる地域の方々との交流



他団体の
活動

セミナーへの
参加

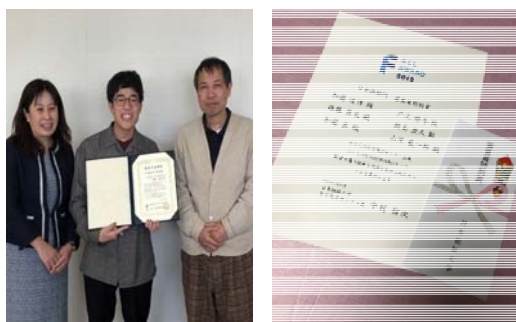
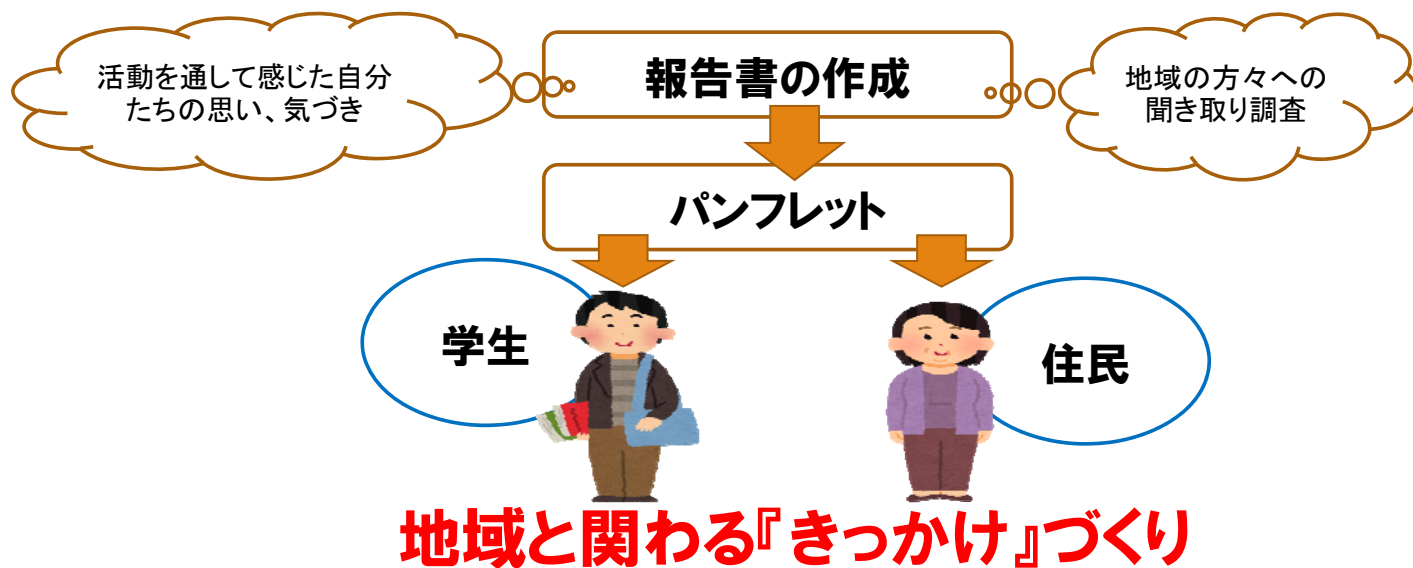
地域特性の
理解



**学生自身も地域へ出て行くきっかけ
多世代交流の機会の増加**



今後のCYCLE ~学びを伝える~



表彰

- ふくしAWARD2017 準大賞
- ふくしAWARD2019 特別審査員賞
- 美浜町日本福祉大学家主組合表彰
- 2019年度JASSO優秀学生顕彰 社会貢献部門 奨励賞(個人受賞)



メディアの取材

- 知多半島ケーブルネットワーク
- 朝日新聞社
- 中日新聞社



参考文献

- 朝日新聞「おいでよ! 美浜のオール世代」(2019年3月18日掲載)
- 中日新聞「桜餅みんなで食べよう」(2019年3月19日掲載)
- unicef 子どもの権利条約
https://www.unicef.or.jp/about_unicef/about_rig.html
- ふくしAWARD2019
<https://www2.n-fukushi.ac.jp/f-award/index.html>
- JASSO(日本学生支援機構)優秀学生顕彰
<https://www.jasso.go.jp/about/organization/kensyo/index.html>